

# 検討委員からのメッセージ

## 希少な野生生物の保全を付加価値とした商品や仕事づくり 保全活用継続の糧

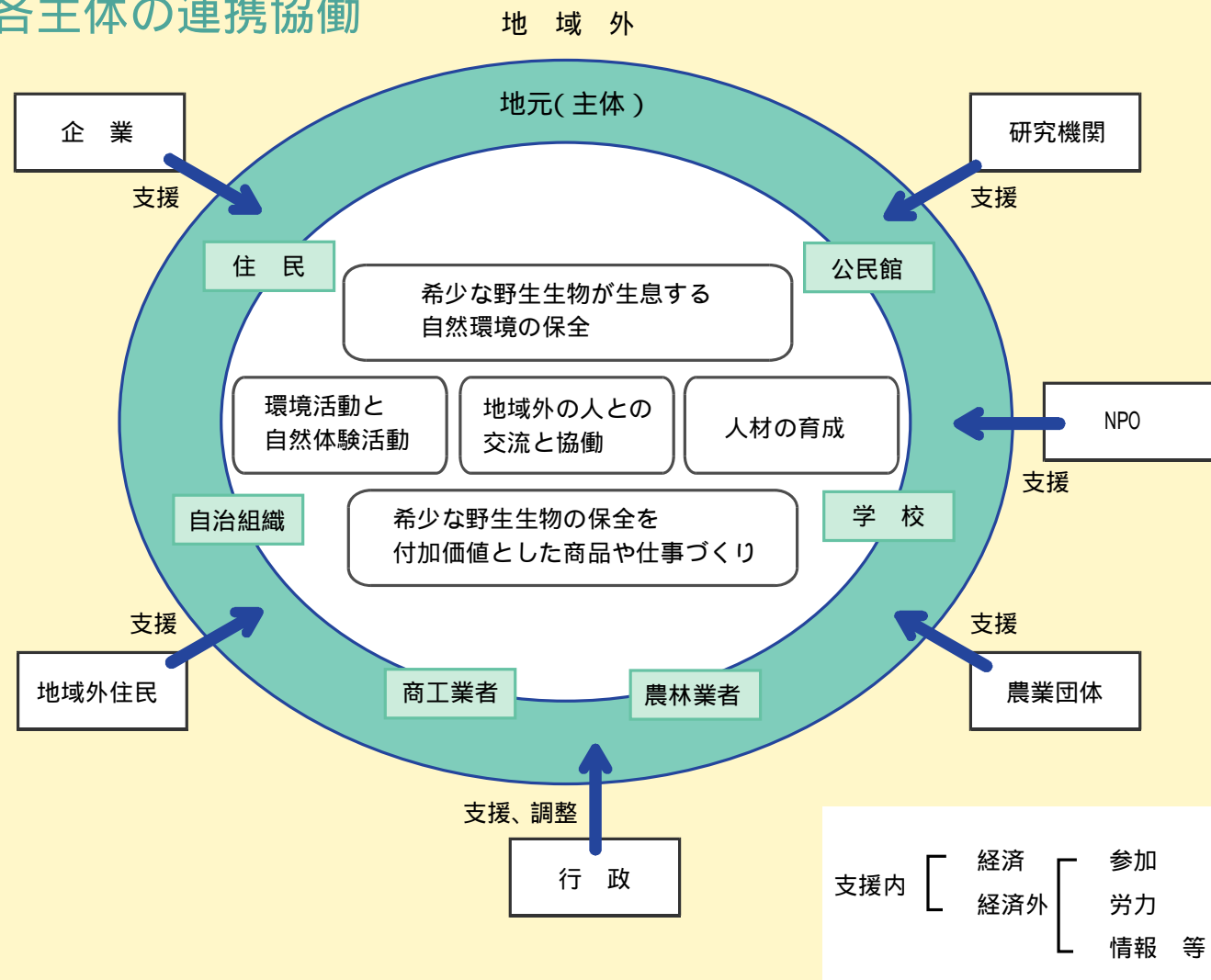
里地里山の保全活用を継続していくには、経済活動と両立を図っていく必要があります。そのためには、里地里山で生産された農林産物を購入することはその自然環境を保全し、人間には安心安全の食料や生活品を持続的に提供してくれるということを広めることが重要です。里地里山の持続的な保全と活用のために、今の時代にあった里地里山の価値を見出し、その価値をブランドとして育てていきます。



### 取り組み例

ホタル米  
環境調和型農業の推進

## 各主体の連携協働



**長谷川 巖** 検討会座長  
希少野生動植物種保存推進員  
前武生東小学校校長

日本は昔から瑞穂の国、秋津島といわれ、里地の稲作とともに、野生生物との共生の和の文化と精神を創造して来ました。この和の文化や精神が白山・坂口の原風景や住民の心の中に色濃く残っています。だからこそ、全国に誇れる家並み、竹林、田んぼ、里山の原風景、絶滅危惧種のアベサンショウウオやメダカ、ゲンゴロウ、キンラン、サギソウ等の希少種の宝庫なのです。今こそ、人間を含めた野生生物、過去と未来、山と里の空間の3つの間(ま)の接点において、都会の知恵を取り入れ、連携を深め、価値を高めることが、白山や坂口の活性化と、多様性のある里地里山の持続可能な利用のしくみを子孫に残し、全国に情報発信することで誇りになると思います。お互いに知恵を出し合い守り発展させましょう。

行政は担当者が代われば対応が大きく変わる可能性がありますから、活動を継続させるには、地域住民の主体性も欠かせません。地域にすでにある組織を活用し、世代毎に地域のリーダーや担い手を育て、自然環境と文化の継承の担い手としての誇りをもち、活躍できる環境作りが必要です。

### 上出 敬一

白山を考える会代表

白山には24の集落が点在し、それぞれに溜池があります。放置された谷田と溜池を中心に、地権者と相談して、数年に1度程度、集落単位で保全管理を実施するか、白山振興会が中心となり各種団体と協力して保全作業や、マップづくりをしてはいかがでしょうか。また、みどりや自然の村や金華山グリーンランドには、多くの方が訪れていますが、この方へも呼びかけ、地域全体を活性化する方策を考えていきたいと思っています。

### 高橋 綾子

めだか連絡会 副会長

今、都会の人が一定期間田舎で過ごすことで都市化した頭と精神をリフレッシュすることが勧められています。人間らしさが求められている時代に、都市の便利さから離れて自然の中に帰るの大事さを痛感しています。休暇村などをつくり、県外からの家族のために貸し自転車などで自由に行きたいところに行ける大きなマップをつくり、安全で楽しい日々を経験できればと思います。私たち大人が後姿を見て続けてくれることを信じ、そんな環境をぜひ残してあげたいと思います。

### 田中 保士

日野川流域交流会推進委員会委員長  
環境文化研究会代表

武生西部地域は粘土質地盤に覆われた地形が多く、その影響で地下水が被圧され湧水箇所が多数見られる。貴重な湧水を利用した個人の溜池が谷戸ごとにたくさん造られ長年耕作し管理してきました。この暮らしが希少な野生生物とのいい関係を育んできたのでしょうか。里地探検隊に加わり住民と交流しながら里地里山の魅力に気づいた検討会でした。先人たちが大事に保全してきた里地の暮らし方を次の世代に受け継ぐために、これからも住民と交流しながら学んでいきたいと思っています。

### 石本 茂雄

武生ロータリークラブ会員  
武生・石本建築事務所長

「海は山の恋人」 山が荒れれば、平野も海も、地球全体が荒廃し循環社会のサイクルが崩れていくことを、肌で受けとめねばなりません。私達そして次の世代が健全に生きて行くためには、里地里山の永続した保全活動が不可欠です。私は、元気な里人が住み続けていただくことが最重要だと思います。「衣食足りて礼節を知る」地域に住んでいる人達の暮らし・子育て・働き場・将来への展望の確立が活動の前提です。里地の人達が主人公となり、行政や団体、日本中の人達が支えていく「しくみ」の確立が大切です。元気な里人が生活・山を支え、地域の個性・ブランドを確立し、次の世代に守り伝えて行きたい「風土・風景」を再認識して、さまざまな支援を受けながら、途切れることのない活動を期待しています。

### 奥村 充司

丹南地域環境研究会代表、  
福井工業高等専門学校助教授

武生西部地域が将来も元気でいるためには、これからの活動が重要です。このビジョンでは、NPOや地域住民が参加して実施する活動が多いですが、多くの人の参画を得るには、その活動が魅力ある活動なのか、またその活動をどのようにPRするかが重要です。

### 戸田 光彦

(財)自然環境研究センター上席研究員

里地里山を活かして守るためには、保全活動と環境の現状・変化を客観的に調べて記録することが大切です。田んぼや休耕地でも、草や木の生え方や生きものの種類・個体数を調べて、耕作や水管理のやり方とあわせて記録しておきましょう。カエルなどの生きものは、繁殖場所を中心に控えています。田んぼや池など、生きものが繁殖できる場所がたくさんあって、その間を動物が行き来できるような環境が大切です。

### 中屋 敬三

武生市白山地区区長会長

この地域は、寒暖の差が大きく米も非常にうま味もおいしい。日本一おいしい米づくりをめざしブランド化していけば、耕作放棄もなくなり山間部の田んぼも耕作できると思います。河川の源流域として合併浄化槽を普及させ、生き物をよみがえらせ、休耕地には水を張りタニシやドジョウがすみ、野鳥は餌をついばむような地域、将来、コウノトリも生息できるような環境を整えていけたらと思います。

### 西田 さち子

めだか連絡会  
前武生市白山公民館主事

我が町の山間の小川には、ハッチョウトンボなどの希少な生物が生息しています。この町にある「さぎ草王国」の活動は、地域内の連帯と外との交流の場となり、その活動は「日本の里地里山30」に選ばれました。廃校になった分校を拠点に、宿泊研修や井戸端で田舎を味わえる環境を整え、自然体験学習の場となることを夢見しています。

### 野村 みゆき

武生市エコビレッジ交流センター指導員

東京の代々木を流れる渋谷川をモチーフに『春の小川』が作られたそうです。春の小川はさらさらいくよ 今ではひとごみに押されながなが流れています。武生市でも、さらさら流れる小川は見つけにくくなりました。岸のスミレやレンゲの花に 私にはまだ目をつむればそういった光景を思い出することができます。自然を失うとともに童謡も無くなりました。この地を歩けば思わず童謡を口ずさんでしまうような里地を守っていきましょう。